

「技術立国日本の後継者を育てる」

校長 石井 幹也

毎朝、校門で登校する児童を迎えています。感心することがいくつもあります。まずは、礼儀正しいことです。学校安全サポーターさんや、横断歩道で停車してくださったドライバーさんへのお礼の挨拶がきちんとできます。中には停車してくださったすべての車のドライバーさんへ、通学班を代表して一台一台お礼を言って見送る6年生もあり、大変頼もしいです。自転車で通う卒業生も「有難うございます。」「行ってきます。」という言葉をかけてくれます。心洗われる毎日です。

また、子どもたちの草花への関心の高さにも感心します。毎日のように四葉のクローバーや草花でつくった作品をプレゼントしてくれます。(これには、学校安全サポーターさんの配慮があると考えます。子どもの安全な登校を確保しながら、道草を楽しむ余裕も確保して頂いていることに対して、心より感謝申し上げます。) 休み時間になると、キャベツ畑でモンシロチョウの幼虫探しが始まります。モンシロチョウが、葉の裏の見付きにくいところに産み付けた小さな小さな卵も、子どもたちは見逃しません。

日本は資源のない国です。科学技術の高さが日本を支えています。しかしながら、様々な場面でその衰えが指摘されています。その一つが、人材育成です。日本では、理工系学部への志願者数は年々減少傾向にあります。このことは、科学技術関係人材の確保の観点から大きな問題となっています。

理科好きな子どもを育てるうえで一番大切なことが、子どもの自然体験を増やすことです。この体験が豊かになればなるほど、子どもの感性と知性が磨かれます。自然に親しむ心も育ちますし、森羅万象の不思議さ、美しさ、奥深さにも気が付くようになります。これが理科的・科学的な探求心の源になるのです。

小島小学校では、地域の様々な人の働きにより、自然体験が充実しています。昨年度、掘り起こしていただいた日本地図の池では、アメンボ等、水辺の生き物が子どもたちを楽しませています。花の栽培では既に10名のボランティアの登録がありました。FBC(フラワーブラボーコンクール)は種をまき、苗を育てるところから始まります。学校だけでできるものではありません。今月末には、学校田において泥んこ遊びが行われ、その後、稲作づくりが始まります。

まさに、学校を含めた地域の大人総がかりで小島の子どもを育てていただいていることに感謝申し上げます。今後さらに多くの方の協働により、教育の充実を図りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



(保護者の皆様へ ~感染症法上の位置付け変更に伴う今後のコロナ対応について~)

- ・スマート連絡帳での毎日の検温報告は必要ありません。(今後は配付した健康セルフチェックシートで確認下さい。)
- ・コロナ予防接種の副反応で学校を休む場合は、出席停止にはならず「欠席」となります。

授業参観・PTA総会・学級懇談会ありがとうございました！



お子さんの学校での様子はどうでしたか？4月から、どの子も前向きに勉強や運動に取り組むことができています。これからも引き続き保護者の皆様のご協力をお願いします。

一年生を迎える会

6年生が中心となり、全校で「1年生を迎える会」を行いました。各学年の発表では、1年生が安心して生活できるよう、小島小の行事や先生紹介をしたり、施設の説明をクイズで出題したりしました。どの学年も笑顔いっぱいの素敵な会になりました。



自分の命は自分で守る！～命を守る訓練・交通安全教室～



困ったことがあったらいつでもご相談ください ～教育相談のお知らせ～

学習、生活、友だち関係など気になることがありましたらカウンセリングをご活用ください。
(希望される方は事前に担任又は教育相談担当までお知らせください。 電話 22-1273)

必要に応じて校内で連携をとり、チームでお子さんの成長のために具体的な対応に取り組みます。

○馬場 未空 (養護助教諭・教育相談担当) ○辻 弘美 (通級担当)

○小川佑香 (スクールカウンセラー・臨床心理士)

勤務日 AM (9時～) : 6/15 9/14 10/12 12/14 1/25 2/15
PM (12時45分～15時45分) : 6/29 11/16 1/18 2/29

○國枝祐子 (スクール相談員)

勤務日 AM (9時～) : 9/26 11/7 12/5 1/23
PM (12時45分～15時45分) : 5/16 7/4 10/31 2/20

※緊急の場合はこの限りではありません。

